

えちごせきかわの秋を満喫

堀と柳の秋まつり&農林業まつり

10/31



《関川村農林業まつり》

ふれあいど〜むを会場に行われた農林業まつりでは、村の新鮮な農産物がずらり。会場に入っただけで、えちごせきかわの秋が満喫できました。また、農産物の販売のほかに、鮭のつかみどり大会なども行われ会場は大盛り上がり。来場者には朝日豚のとん汁やなめこ汁、甘酒が振る舞われ皆さん喜んでいました。

《堀と柳の秋まつり》

役場前の柳とせせらぎ通りを中心に行われた堀と柳の秋まつり。

当日は風も強く肌寒い中でのまつりとなりましたが、約四十店が出店したフリーマーケットや高所作業車体験、恒例となった村長ガイドによる街並見学ツアーなどで賑わいました。よさこいソーランには、さいたま市をはじめ、村内外から約三十チームが参加。躍動感あふれる踊りを披露し、沿道の観客は各チームの踊りに熱い視線を送っていました。



東桂苑では「もみじまつり」

ライトアップされた紅葉が

作り出す幻想的な世界

十一月六日と七日の二日間、東桂苑で村の秋を楽しむ「もみじまつり」が行われました。もみじまつりの開催は初めてで、主催はNPO法人渡辺家。

NPO法人渡辺家の廣瀬佳明事務局長は「関川村は、もみじのきれいな所で、何もしないのもったいない。ライトアップして幻想的な夜を演出し、皆さんに見てほしい」と話していました。

紅葉のライトアップ以外にも、庭園には約三百もの竹とつるが置かれ、竹灯かりをバックによさこいソーランやフラダンスが披露されたほか、大正琴の演奏会も行われました。村上市から参加したよさこい和楽の武者良子さんは「夜、こういう雰囲気の中で踊るのは初めてで、不思議な感じでした。ライトアップされた紅葉がすごくきれいで、こういう所でまた踊りたいです」と幻想的な夜に感動していました。

林道蛇喰・中束線が開通

十一月十日、林道蛇喰・中束線の開通を記念して、女川ふるさと会館で記念式典が行われました。

林道蛇喰・中束線は、作業道などの整備を進め、間伐や拡大造林を推進したいという地元集落からの強い要望により、平成八年に開設事業に着手。総事業費は約十二億円で、全長は七千七百五十四メートル。

式典には、岩船治山林道協会会長の代理で鈴木源左衛門村上市副市長をはじめ、県の関係者や工事関係者などが参列しました。

林道蛇喰・中束線の開通によって、森林整備のさらなる向上が期待されます。



ボランティアの皆さんによる

PR活動も行われました

開通記念式典を間近に控えた十一月五日、林道を美しくする会（星義弘会長）の皆さんが、林道の維持管理や大切さをPRするため、刈払いや泥上げなどのボランティア活動を行いました。

同会は、活動を始めて十一年目で、年間二〜三か所で活動しています。会長の星さんは「林業の重要性の啓もうが目的で、こういった活動を行っています。地元の人たちと一緒に維持管理活動をしていきたい。林業の活性化につながってほしいと願っています」と話していました。

東京上野で村人会総会が開催されました

11月21日、東京上野の「精養軒」で第29回首都圏在住関川村人会総会が盛大に開催されました。総会には、昨年より30人多い93人の村出身会員の皆さんが参加。

総会では、事業報告や決算報告、予算案などを審議・承認。その後行われた交流会では、懐かしい顔を合わせた会員の皆さんが思い出話を花を咲かせました。

第30回村人会は 関川村を会場に行われる予定です

今回の村人会総会は、第30回を記念して村内を会場に開催される予定です。会員の皆さんは、たくさんの村民の方たちと交流したいと話していました。懐かしい旧友との再会、楽しみですね。



グラウンドに植えられた20本の桜

関川小で開校記念植樹

晴天に恵まれた十一月十九日、関川小学校グラウンドで、村教育委員会主催による開校記念植樹が行われました。

植樹したのは、ソメイヨシノとシダレ桜の苗木それぞれ十本。この苗木は、緑の百年物語から三十五万円の助成を受けて準備したものです。

記念植樹には、村や学校関係者のほか、緑の百年物語の常任理事で、以前、旧川北小学校校長を務めた渡辺イツ子

さん（村上市）も参加しました。川村三千男校長は「今日は関川小のみんなが元気に大きく育ってほしいという願いを込めて植えたいと思います。そして、この木を全校児童のみんなで大切に育てていきたい」と挨拶。完成したばかりの新しいグラウンドに、初めて全校生徒が集まったこの日、子どもたちは手分けして、少しずつ土入れを行いました。クラスごとに分かれて植えられたさくらの苗木。毎年春には、グラウンドから満開の桜が子どもたちの成長を見守ることでしょう。